

特別な支援が必要な生徒の引継ぎの充実に向けて ～切れ目ない支援を実現するために～

高等学校が中学校からの支援を引継ぐためのポイント

切れ目のない指導や支援を行うためには、生徒の学習や行動の状況だけではなく、中学校でこれまで行ってきた支援の内容「〇〇をすれば、□□ができる」「〇〇の状況が見られるが、△△のような対応をすると□□ができる」などを、具体的に支援内容を引き継ぐことが大切です。

忘れ物が多くて、課題を出せないことが多い。

こだわりが強く、気持ちの切り替えが難しい。

だけではなく・・・

準備するものをメモ帳に書くように指示をすると、確認ができて忘れ物が少なくなった。

見通しを持てるよう、前もって予定を伝えると、気持ちを切り替え、次の行動に移ることができる。

混乱したときに、クールダウンする時間と場所を確保すると、〇分後くらいから再び参加できる。

「環境整備や働きかけの工夫」「支援のこつ」「情緒的に不安になった時の対応等」も引き継ぐと、高校でこのような支援に繋げることができます。

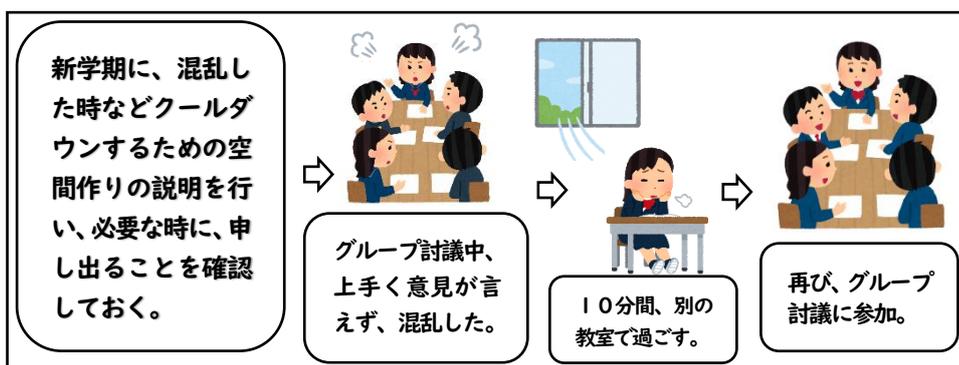
【例1】

授業の使用教室の変更がある。



【例2】

グループ活動中に混乱した。



必要な支援内容や支援方法の情報を繋ぐことが大切！

【引継ぎ情報の例】

○個別の教育支援計画の基本情報（個別の教育支援計画がある場合）

○本人の状況

コミュニケーション（対人関係）

学習状況

日常生活

感情のコントロール

本人の特性理解 等

○中学校での状況・支援方法等

学校生活における指導・支援

学習等における指導・支援

特に必要であった支援内容や支援方法

例：環境整備や働きかけの工夫、支援のこつ、情緒的に不安になった時の対応等

○中学校の伝えたいこと

高校でも引き続き必要となる指導・支援

障がいによる困難に関連することで、高校在学中に身につけてほしい力